



2020年2月13日

各 位

会社名 株式会社 T A T E R U
代表者名 代表取締役 CEO 古木 大咲
(コード番号:1435 東証第一部)
問合せ先 取締役執行役員 CFO 高杉 雄介
(TEL. 03-6447-0651)

特別損失の計上及び通期連結業績予想と実績値との差異に関するお知らせ

当社は、2019年12月期において下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせいたします。また、2019年8月8日に公表いたしました通期連結業績予想と本日公表いたしました実績値に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

記

1. 特別損失の計上について

(1) 有形固定資産（投資用不動産）の減損損失の計上

当社の保有する有形固定資産（投資用不動産）について、当初の保有目的を変更し、販売用不動産として販売する見込みとなったため、「固定資産の減損に係る会計基準」に基づき、帳簿価額を正味売却価額まで減額し、減損損失947百万円を特別損失に計上しております。

(2) 棚卸資産評価損の計上

当社グループの保有する棚卸資産の一部について、「棚卸資産の評価に関する会計基準」に基づき、収益性の低下による簿価切下げを行い、棚卸資産評価損549百万円を特別損失に計上しております。

2. 通期連結業績予想と実績値との差異について

(1) 2019年12月期通期連結業績予想と実績値の差異（2019年1月1日～2019年12月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想 (A)	19,492	△7,916	△8,311	△10,599	△119.40
今回実績 (B)	18,828	△9,671	△10,122	△14,536	△163.11
増減額 (B-A)	△664	△1,755	△1,811	△3,937	
増減率 (%)	△3.4	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2018年12月期)	79,149	721	507	821	9.70

(2) 業績予想と実績値との差異の理由

上記の特別損失の計上に加え、販売用不動産の正味売却価額を慎重に検討した結果、評価損 1,517 百万円を追加で計上するとともに、債務保証損失引当金 304 百万円を売上原価に計上いたしました。さらに、投資有価証券評価損 154 百万円、インベストオンライン社の売却価額の変更に伴うのれん償却額 397 百万円を特別損失に計上いたしました。

上記の結果、売上高は 18,828 百万円（当初予算比 664 百万円減）、営業損失は 9,671 百万円（同 1,755 百万円減）、経常損失は 10,122 百万円（同 1,811 百万円減）、親会社株式に帰属する当期純損失は 14,536 百万円（同 3,937 百万円減）と前回発表予想を下回る結果となりました。

以上